

花の香り（夏-6）

月下美人、ノックアウト（バラ）

中村祥二（会長）

薄命の花—月下美人

月下美人 (Epiphyllum oxypetalum) はサボテン科の一種。メキシコからブラジルにかけての中南米に自生する。7月から11月にかけて3～5回開花する。気温が低いと朝方まで開花が続くことがあるという。横浜の私の庭では平成2年に3回咲いたことがある。おもしろいことに花は数日にわたってパラパラ咲くということではなくて、一晩に3花とか5花がまとまって咲く。数週間たつと、また蕾がふくらんできてまた一斉に咲く。それを繰り返す。花を咲かせるエネルギーをため込んでいるのだろう。大きな鉢になると10花を超える花が咲き、花の重さで鉢が倒れることもあるというから驚く。ひと晩に大きく膨らんだつぼみが1つ見つかり、その株に同じようなつぼみがついている。今晚咲くのだなということがわかる。いかにも大きく重さそうにたれ下がった蕾は風に促されるかのように少しずつ開いていく。10センチほどの大きな白い花が咲いていく様は神秘的で美しい。雄しべと雌しべの間には見えるか見えないかのようなかすかな糸がほのかに行き交っているような風情には妖気が漂っている。花は自家受粉をするという。翌朝のすっかりしぼんだ花は疲れ切ったように見える。花言葉の「はかない美」には納得がいく。

花の香りは粉っぽい甘さがある。ローズ様が基調になっていて、それにカーネーションとマダガスカルに産するイランイラン様の香りが加わり華やかさを強めている。methyl salicylate 様の薬臭さも少し混じっていて、香りの一番強い時には樟脳様な香りにも感じる。



月下美人

庭先から風によって家の中に流れ込んでくる香りは、顔を近づけて嗅いだときとは違い、夕顔の様に薫る。

園芸の専門書によると、開花前の2日から3日間、夜と昼とを逆転させることによって開花時刻が変化し、昼に咲くようになるという。陽光の下で咲く月下美人の香りを一度嗅いでみたいと思う。

月下美人の花は食用にもなり台湾ではスープ等に用いられている。軽くゆでて酢醤油や三杯酢で食べる、生のままサラダにするなどの調理法もインターネットで紹介されている。私としては美人を食べてしまうのはもったいないし、少し薬臭さのある花を食べるのにもためらいを感じる。



Pink Knockout

Knock out (ノックアウト) という名の新しいバラ

先頃、興味あるバラに出会った。

5月中旬、大阪で行われた日本初の世界バラ会議では優れたバラの展示、各種の審査、学術講演などがあり、私は海外の愛好家も含む8人のメンバーと一緒にバラの香りの審査を行った。遺伝子組み換えによる青いバラの展示も珍しかった。私の目にはこれまで見た青いバラの中で最も青に近いバラに映った。1990年の国際花と緑の博覧会の跡地につくられた鶴見緑地の会場の3日間の入場者は約71,000人という盛況であった。別会場の国際交流センターでは4日間にわたり世界各国の専門家による学術講演が行われた。200名の会場はいつも満員で最終日の最終講演のおりも空席はほとんどなく関心の高さがうかがえた。

いくつかの講演の中に育種のあるべき新しい方向についての提案が含まれていた。

低温に強い性質、病虫害にたいする減農薬の品種、施肥が少なくてもよい品種、香りの良い品種などの必要性があげられていた。さらに地球の温暖化の傾向を受けてより高温に耐えられる品種の開発が望まれるということであった。どれをとっても重要な内容であり、園芸の世界でも薬剤散布は少ないほうがいいし、地球の温暖化には備えておかなければならない。

バラの香りの講演をしたムショット氏から千葉の京成バラ園で行われる新しいバラの発表会に来ないかと誘われた。同氏は南仏プロバンスのバラの育種でPeace、Papa Meilland、Soniaなど数々のバラの名花を作出している有名なメイアン家の育種家である。メイアンの当主のアラン・メイアン氏も出席されるとのことであった。

発表会の一つにPink Knockoutが紹介された。Knockoutシリーズの半八重の四季咲きのシュラブで花付きがよく、春から初冬まで咲き続ける。香りは強くはないがTea系でさわやかな甘さを感じさせる。ビル・ラドラー氏の作出したものを改良していて、カナダのマイナス30℃の土地にも耐えられるし病虫害少なく、肥料も少しですむ、トゲも少ない。その上高温多湿にも強いと聞いて驚いた。Knockoutシリーズのカタログ中には香りの強い種類Sunny Knockoutもある。

バラらしくないこの名前の由来はメイアン氏によると、このバラのあまりに革新的な特性を聞かされた人が「ノックアウトされる」様な衝撃を受けたと、その時の気持を述べたところからきている、という。この驚くべきバラを私も育ててみたい。